

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.12) 平成24年度:106～109.

乳房温存術後照射の皮膚炎ケアの分析
～SLEを合併している1例～

押方 智子、芝 紀美江、中村 智美、中島 香織、山品
将祥

乳房温存術後照射の皮膚炎ケアの分析
～SLEを合併している1例

旭川医科大学病院 看護部 押方 智子 芝 紀美江 中村 智美
旭川医科大学病院 放射線科 中島 香織 山品 将祥

【はじめに】A病院の放射線治療室は、放射線治療件数が平均43件/日、看護師は3人体制である。2011年の乳癌照射は143件で、その内SLE合併の放射線治療1例について報告する。【症例】S氏43歳女性、右乳癌T1bN0M0。既往歴：左乳癌・SLE（10年前よりステロイドの内服なし）・喘息。2011年7月26日右乳房温存術施行。術後タモキシフェン、トラスツズマブでの併用療法と同年9月より50Gy/25frで放射線治療を行った。【結果】①チーム医療：放射線科医師・技師・看護師による1回/Wカンファレンスで情報共有と皮膚炎のケア方法を評価検討した。②皮膚モニタリング：毎日の観察に加え、皮膚の状況を5回毎に写真撮影し変化の対応に努めた。リンデロンVG軟膏は終了から使用した。③下着：先行研究で皮膚の摩擦予防に有効であった綿のタンクトップと、綿ハンカチ・綿長袖シャツ・片胸帯を使い分け、皮膚炎症状の変化に対応した。④担当看護師による面談：治療計画・終了時に全症例実施している面談に加え、日々の治療時も気がかりが解決できるよう担当看護師を中心にタイムリーに面談を実施した。有害事象は

乳房温存術後照射の 皮膚炎ケアの分析

～SLEを合併している1例～

旭川医科大学病院

光学医療診療部・放射線部ナースステーション¹⁾

放射線部²⁾

押方 智子 芝 紀美江 中村 智美¹⁾

中島 香織 山品 将祥²⁾

I はじめに

A病院の放射線治療室は、放射線治療件数がH23年度は平均43件/日、看護師は3人体制でそのうち専従看護師が一人配置されている乳癌照射は143件で、その内SLE合併の放射線治療1例について関わったので報告する




Ⅱ 目的

SLE合併の乳癌放射線治療に対する看護ケアを明らかにし、皮膚炎軽減に向けて効果的なケアを分析する



Ⅲ 方法

- 1) 期間：平成23年9月～平成24年11月
 - 2) データ収集方法：治療期間中の外来診療録とカンファレンス記録から、看護師の関わり・ケアの内容を抽出した
 - 3) 分析方法：
 - ① 抽出した内容を一意味一文としてコード化した
 - ② コード化されたデータを類似性・相違性に基づいてカテゴリー化した
 - ③ 信頼性、妥当性を確保するため、スーパーバイズを受けた
- 


IV 倫理的配慮

所属する大学病院倫理委員会の承認を得た
対象者へ研究目的、方法、プライバシー保護を
説明

参加への自由意思、不参加でも不利益がない
ことを口頭及び文章で説明し同意を得た



V 対象

- 43歳女性、右乳癌 pT1bN0M0
 - 現病歴：平成23年7月、右乳房温存術施行。
 - 術後タモキシフェン、トラスツズマブでの併用療法
同年9月より50Gy/25fr(4MV-X線)で放射線治療を行った
 - 既往歴：
 - 左乳癌：平成17年11月、左乳房切除術施行
 - SLE(10年前よりステロイドの内服なし)
 - 喘息
 - シックハウス症候群
- 

VI 結果

放射線治療中の看護ケアとして、
4個のカテゴリー
14個のサブカテゴリー
76個のコード
が抽出された(表1, 2)



表1

放射線治療中の看護ケア

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
チーム医療資料1	情報共有	治療前の患者紹介
		皮膚炎悪化した場合は中止という治療方針の確認 週1回、カンファレンスでスタッフ間で有害事象の把握 定期的に写真撮影して症状観察する
チーム医療資料1	治療中の連携	技師の協力のもとセットアップの前に照射野の写真撮影実施 治療後更衣室で症状確認・相談の実施のための人員調整 患者の質問に対する技師の説明と補足
皮膚のモニタリング資料3	本人の自覚症状の有無を観察	乳頭・腋の掻痒感、疼痛、摩擦 創部の疼痛 照射野の熱感 乳頭の乾燥
		治療開始時の創部の状況 乳頭の発赤、色素沈着 掻破による表皮剥離の有無
	皮膚炎への気がかりを把握	注意して皮膚炎の観察を実施 治療5回毎に照射野の写真撮影
		乳頭周囲の乾燥・色素沈着の把握 腋窩・乳頭の掻痒感・疼痛の把握 照射野全体の熱感の把握 擦過傷部位の表皮剥離の確認
本人の自覚症状への対処法の把握	クーリング実施し掻かないよう気をつけていた 照射野の摩擦を減らすため、生活上の工夫をしていた	

表2

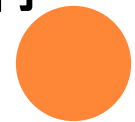
放射線治療中の看護ケア

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	
下着の工夫 資料2	適切な下着の選択	綿100%の半袖シャツ裏表+専門店の胸帯の提案	
		片胸帯直接使用又は綿100%のハンカチ併用の提案	
		綿100%長袖裏表+片胸帯の提案	
		綿100%ハンカチ+綿100%長袖裏表+片胸帯の提案	
		綿100%ハンカチ+片胸帯+綿100%長袖裏表の提案	
	適切な皮膚保護材の選択	シャツの縫い目の刺激を避けるためシリコンガーゼ+片胸帯の提案	
		シャツの縫い目の刺激を避けるため綿ガーゼ+片胸帯の提案	
	資料2	下着への気がかりの把握	乳頭の保護のためにナースバン使用を促した
			入眠時の下着選択について
			下着のしわ・衣類の縫い目の刺激 皮膚保護材使用について 専門店の胸帯の圧迫感
本人の自覚症状の対処法を把握		疼痛軽減のための工夫をしていた	
		下着や保護材の縫い目やしわを予防する方法を選択した	
		刺激と自覚した保護材は使用中止できていた	
相談 資料4	開始前の説明	オリエンテーション	
		仕事継続できるよう時間配慮 定期的に写真撮影し症状観察する	
	終了時の説明	皮膚炎の経過	
		終了後は自分で判断となるため、不安な場合は電話連絡してもらう 軟膏と皮膚保護剤の使用方法 次回外来受診日は、治療室でも経過観察する	
	日々の皮膚炎への支援		セットアップ前に皮膚の観察（見て、触れて確認）
			治療後は更衣室内の鏡で照射野を患者と確認 十分実施できているため頑張り支持
ゲーリングの効果、実施方法の説明 症状を軽減できる摩擦予防についての助言			
日々の下着選択の支援		刺激や使用しにくい点を確認し、本人が納得できるまで相談・助言	
		下着に変更あった場合は翌日に効果確認	
	治療継続の支援	体調確認	

資料1 チーム医療



医師・技師・看護師でのカンファレンスにて情報共有



資料2 下着の工夫



半袖シャツ+片胸帯



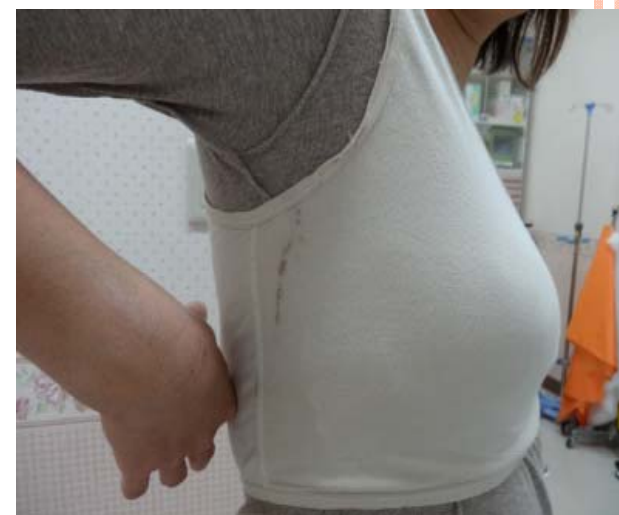
長袖シャツ+片胸帯



シリコンガーゼ+片胸帯



+



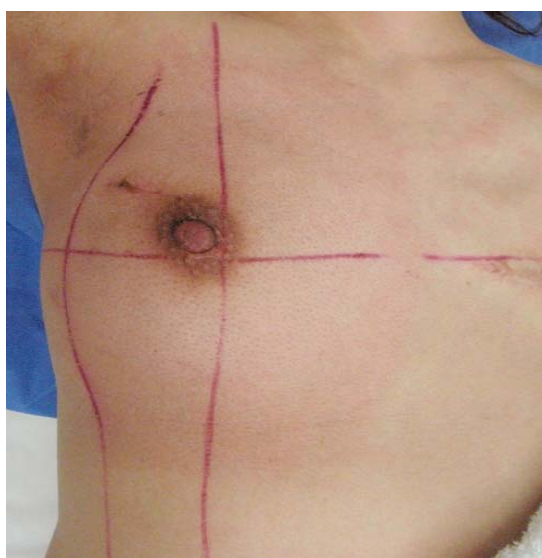
綿100%ハンカチ広げて腋～腕内側に当て

資料3 皮膚のモニタリング

↓10回目



↓25回目終了



↓終了後1週間



皮膚炎は、CTCAE-ver3Grade1~2で終了



資料 4 相談

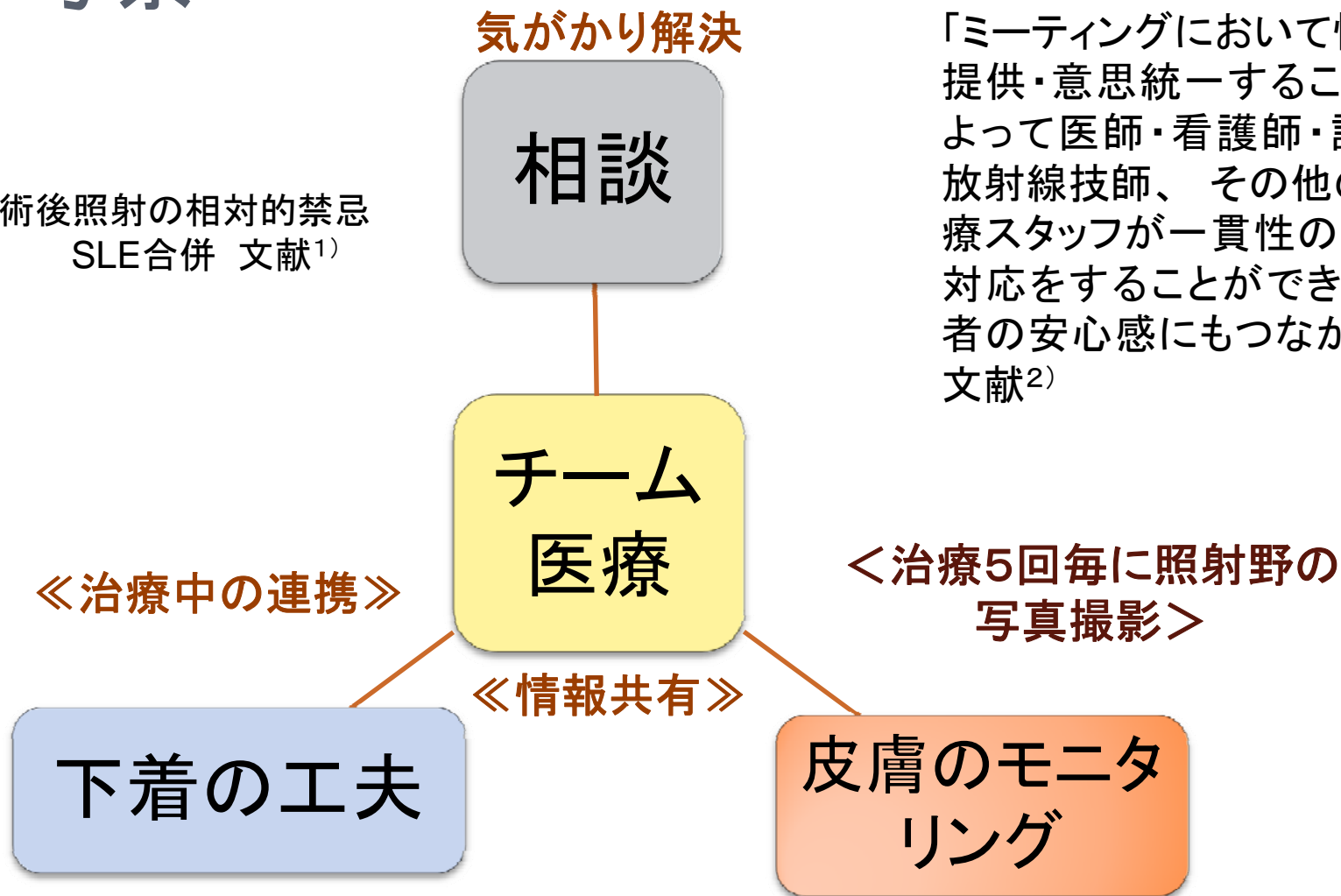


皮膚炎・下着選択・治療継続の支援



VII 考察

乳房温存術後照射の相対的禁忌
SLE合併 文献¹⁾



「ミーティングにおいて情報提供・意思統一することによって医師・看護師・診療放射線技師、その他の医療スタッフが一貫性のある対応をすることができ、患者の安心感にもつながる」
文献²⁾

皮膚炎を軽減するための看護ケアの4つのカテゴリーは、常に関連があった。合併症のある患者との関わりでは特に『チーム医療』『相談』がケアの一助となったと示唆された

VIII 結語

- 今回、合併症のある患者に対する看護ケアでは『チーム医療』『皮膚のモニタリング』『下着の工夫』『相談』の4つカテゴリーが抽出された
- 皮膚炎は合併症のない患者と同様のCTCAE-Ver 3Grade1～2で終了した

引用・参考文献

1) Anti-Cancer Guide Brest Cancer:監修

川崎医科大学乳腺甲状腺外科学教授 園尾 博司

2) 濱口恵子(2009):がん放射線療法ケアガイド.中山書店

・辻井博彦(2005):がん放射線治療とケア・マニュアル.

医学芸術社



筆頭演者の利益相反状態の開示

すべての項目に該当なし

